

2008年 3月23日 イースターの日曜日
 ダニエル エルリック牧師
 シリーズ : 始まり #10
 題 : 女の子孫
 聖書の箇所 : 創世記 3:14-15



I. 始めに

復活なされたのです！アーメン！イースターおめでとう！2000年も前のことです。婦人たちが墓へ見に行ったとき、墓は、すでに空っぽ。でも、そこに天使がいて、婦人たちにはっきりとこう言います。(マタイ 28:6)「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なされたのだ。」その日以来、教会は、私たちの主、イエスの復活に喜びでいっぱいです。B.C.の漫画を描くジョン・ハートは、イースターの喜びを、この漫画で表現しています。そこでは、男が空の墓に向かい叫んでいますよ。「よかった！」と。



そう、よみがえられたのです！アーメン！イエスの復活は、大いなる喜び、すばらしい知らせです。そして、神の恵みによって、信じる者全てが、神から与えられている祝福と復活の約束にあるのです。パウロは、これらのことをコロサイの信徒への手紙 3:1-4 で、このように語っています。「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」
 私たちは、主イエス・キリストの復活に大いに喜び、イエスがくださった永遠の命の贈り物に感謝の気持ちを捧げます。

II 教え

信じていない者にとって、復活は、ばかげたことのように思えますが、信じる者にとっては、永遠の真理の命を確かめる約束なのです。復活は、私たちの神が生きておられる神であり、約束されているすべてのことを、成されるということの大いなる証明となります。2000年前、イエスが死からよみがえられましたが、イースターの話は、その時よりも、ずっと前に始まっているのです。この世界の創造さえ始まっていない時からです。ヨハネによる福音書 17:24 にあるイエスの祈りの言葉を考えてみてください。「父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。」

創造主なる神は、永遠の神であられ、時間と空間を超えて存在していらっしゃいます。そして、愛の神、恵みの神であられるのです。この世の創造の前から、時間さえ始まっていないときから、もうすでに三位一体の神が、つまり父、子、聖霊が、完全なる愛と恵みのうちに生きて存在していたのです。神は、この愛と恵みを私たちに分け与えようと望まれています。それが、なぜ、神が天と地を創造してくださったかということです。エフェソの信徒への手紙 1:4-5 は、こう語っています。「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。」



イエスの誕生、死、そして復活は、計画されていなかったことではありま

せん。それは、神の初めから、世界を創られる前からの御計画でした。十字の長い影は、歴史全体に渡って横たわり、復活の喜びのこだまが、時の始まりから、終わりの時にいたるまで、響いてきます。時が始まる前から、神は計画を持たれていました。罪の贖いの御計画、そして神の息子、娘として子となる御計画でした。ですから、こうあるのです。(創世記 1:1)「初めに、神は天地を創造された。」そして、(創世記 1:27)「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」

創世記 2:15-17 では、続けて歴史を語っています。「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。主なる神は人に命じて言われた。『園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。』」神は言われました。食べると必ず死んでしまうと。ところが、悪魔は、こういうのです。(創世記 3:4)「決して死ぬことはない。」そして、エバは、嘘を信じる方を選んでしまうのです。時々、私たちも、物事をとても複雑にしてしまいます。けれども、人生は本当にとても簡単なのです。神は、私たちに自由な意志を与えて、毎日、選択させてくださいます。悪魔の嘘を信じる方を選ぶこともできるし、神の真理を信じる方を選ぶこともできるのです。

アダムとエバは、善悪の知識の木からの実を食べたのです。すると彼らの目が開け、自分たちが裸であると分かります。そして恥ずかしくなり恐ろしくなりました。二人は、自分たちが神に背き、間違ったことをしてしまったと分かります。罪を犯してしまったと分かるのです。皆さんは、二人の言葉に、彼らの恥ずかしさを聞かれるでしょう。創世記 3:10 で、アダムは神が言われていることに、このように答えています。「彼は答えた。『あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。』」エバもこう言います。(創世記 3:13b)「蛇がだましたので、食べてしまいました。」アダムとエバは、自分たちが罪を犯してしまったと分かりました。でも、告白する代わりに、罪を隠そうとしたのです。

悪魔は、今でも誘惑しようとしています。私たちの目に喜ばせるような嘘と誘惑を囁きながら。けれども現実には、悪魔というのは、敗北した哀れな創造物にすぎないのです。悪魔の敗北は、天国から追放された時に始まり、エデンで神が裁かれ、最後にキリストの十字架で完成されました。悪魔は、自分の罪のために、すでに死に至る刑に処せられています。しかし私たちは、刑の期間中と最後の審判との間に生きているのです。ですから、悪魔は、すでに敗北し、裁かれているにもかかわらず、彼はいまだにあちこちで、たくさんの嘘をついています。



アダムとエバが罪を犯した後、主は、二人に質問なさいます。それは、アダムとエバが、自分たちの罪が分かり、悔い改めの機会を与えさせるためでした。けれども、神は悪魔には何の質問もされませんでした。主は、ただ簡単に申し渡されたただけでした。創世記 3:14-15 を見てください。「主なる神は、蛇に向かって言われた。『このようなことをしたお前は／あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で／呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く。』」

蛇は、呪われ、腹で這いまわり、塵を食べることになります。ずるずると地上を這いずりまわる蛇は、私たちには見慣れた姿です。でも、その言葉は比喩的であり、その意味は悪魔が一生、屈辱と敗北を続けて経験していくということだと思います。悪魔は、いまだに力があり、私たちは彼のたくらみに油断禁物です。けれども、悪魔は敗北した敵ですから、もし、私たちがキリストにあれば、何一つ恐れることはありません。

神は、敵意を女と悪魔の間に置かれ、女の子孫と悪魔の子孫の間に置かれました。それから、主は、悪魔に言われます。「彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く。」この御言葉はメシアであられるイエス・キリストのことを語ります。創世記 3:15 での、「彼」というのは、女の子孫を表しています。ですから、その主なる意味は、女の特別な子孫であり、ベツレヘムで生まれる赤ん坊であり、乙女マリアの子という事です。ヘブライ語の原文では、その言葉は「子孫」と訳される

言葉は、単数形ですので、一人の赤ん坊を指していることは明らかです。そして、文字通りに「種」という意味になります。ですから、蛇の頭を砕くそのお方は、文字通りに、「女の種（乙女から生まれたお方）」なのです。

けれども、私たちは皆、学校へ行きますので、女は種を持たないことを知っています。男は、種があり、女は卵があるのですね。そこで、聖書が「女の種」と語るとき、それは何か特別な事を伝えています。それは、生まれて子供には人間の父を持たないという事を伝えているのです。ここ創世記 3:15 では、聖書はもうすでに乙女の出産を、先にさし示しています。乙女マリアは、神の霊の力により身ごもったのです。そして、マリアから生まれたのがイエス、つまり蛇の頭を砕いたメシア（救い主）であり、言い換えると、そのメシア（救い主）が完全に悪魔を打ち負かすのです。

けれども、その勝利には、代価が支払われるのです。救い主は苦しまれ悪魔は、イエスのかかとを砕きます。このような英語の古い表現があります。「彼は、かかとをしっかりと配置する」これは、兵士や運動選手が競技の場に進むとき、勝利に向かうときに用いられる表現です。イエスの誕生は、悪魔との戦いの地に、神が御自分のかかとを、一歩踏み入れられたと考えられます。そして、十字架は、イエスが勝たれたという勝利を表します。蛇は、彼のかかとを砕きました。でも、もし蛇があなたのかかとを砕いたら、どうなるでしょう。あなたは、多分倒れてしまうでしょうね。それで、悪魔が激しい怒りで、イエスに襲いかかったとき、打ち負かされました。イエスは倒れ、起き上がれません。ところが、イエスは、起き上がれないままではなかったのです。



霊的な領域から見ると、ここで起こった事は、何か次のようなことだと思われま。ちょっと想像してみてください。私が握りこぶしを上げ、満身の力をこめて岩の壁をたたいたとします。岩の壁は、粉々に割れるでしょうか。いいえ、逆に私の手の骨が砕けてしまい、岩の壁は、ビクともしないでしょ。さて、創世記 3:15 では、太古の蛇である悪魔は、できる限りの強さで、イエスのかかとを打ち砕きました。しかし、イエスは、



いつの世でも最強。蛇の激しい強打も、岩を粉々にはできません。それどころか、その一撃は、蛇の頭を砕いてしまうのです。いくつかの象徴的な御言葉の中に、その劇的な事は、預言されています。悪魔は、女とその子孫に対して、果てしない戦いを挑んできます。悪魔は、自分と自分の働きを破滅しに来る「女の種」を断ち切りたいからです。しかし、メシアであられるイエスが、この世に来られ、ベツレヘムにて乙女よりお生まれになったのです。悪魔は、十字架において満身の力を込めてイエスを打ち砕こうとします。しかし、その強打は、悪魔の力を砕いてしまうのです。十字架は、イエスの勝利であり、敗北ではありません。イエスは、ちょうど蛇によってかかとを砕かれてしまった人間のように倒れてしまわれます。でもイエスは、倒れられたままではありません。イエスは、墓からよみがえられ永遠に生き続けられているのです。



ある人は疑いますが、復活は本当の歴史です。コリントの信徒への手紙一 15:20-22 を見てください。「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。」キリストによって、すべての人が生かされることになるのですね。これが、私たちが述べ伝えている良き知らせ、イエスへの信仰を通しての救いという良き知らせなのです。

II. まとめ

イースターは、イエスについてのすべてを相対的に表します。
クリスマスは、乙女よりお生まれになった救い主の到来です。
救い主は、悪魔、罪や死にきっぱりと敗北させるために来られました。
十字架は、間違いではありません。むしろ神の戦いの計画でした。
打ち負かされたのではなく、いつの時もすばらしい勝利でした。
十字架は、処刑ではなく、神の子羊の捧げものでした。
捧げものは、とても力強く、悪魔と彼の働きを砕いてしまいました。
十字架は、終わりではなく、始まりでした。
約束は、イエスの復活により真実であると証明されました。
イエスは、死から甦られ、信じる者すべてに復活を約束してくださいました。
イエスに「はい」と答えてください。そうすれば、皆さんも蘇りの命を頂けます。
イースターおめでとう！

さあ、祈りましょう！

III. 最後の祈り

